



診察室

ざくばらん

「わあ、死ぬ」

実は怖くない

良性発作性頭位目まい

ひとは見掛けによらぬもの。「コワそう」に見えて、ホントは優しいひともある。その逆もある。病気も同じだ。症状だけで判断してはいけない。

57歳のB子さん。朝、起きようと頭を上げたら、いきなりグルグルと頭が回った。目が回った。目まいだ。そのうちムカムカしてきて、ひびく吐いた。「これは頭の病気だ。わあ、死ぬ」と思ったという。

家族も、「ひよっとして脳腫瘍か?」「それともくも膜下出血か?」などと大騒ぎしている。

やっと診察に現れたワッシーに注がれる視線には、不満と不安が込められている。その気持ちも、痛いほど分かる。でも、吐くのが吐くまい

が、血圧が上がろうが、B子さんに頭痛はない。手足は普通に動かし、意識もはっきりしている。ただの「回転性目まい」だ。なら、慌てることはない。おそろへ、「良性発作性頭位目まい」だろう。

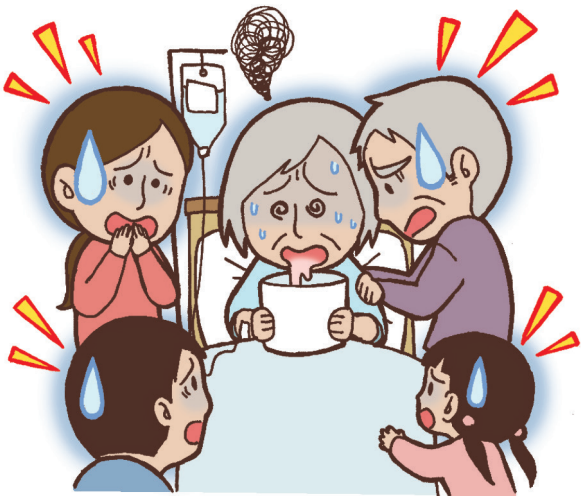
実は、回転性の、今にも死ぬかと思つような、ひどい目まいのほかが怖くないのである。その約80%以上は、耳の奥にある内耳に問題が起きたものだ。耳鼻科の病気である。中でも一番多いのは、良性発作性頭位目まいだ。起き上がった時、寝返りしたりして頭の位置を変えた時に起きる。目まいの持続時間は、20秒くらいと短い。メニエール氏病と違い、難聴や耳鳴りを伴わない。

診断は間違いなからう。まずは、目まいの点滴を始める。次は、頭のMRI(磁気共鳴画像装置)の検査だ。患者さんや家族は、ただの診察だけで納得はしない。精密検査をして、頭に病気がないことを確かめる。みんなを安心させることも、治療の一つなのだから。

なにより、検査もしないで頭の病気を見落とすことは許されない。回転性目まいでも、脳梗塞が原因といふことはゼロではないのである。というホントにコワイ話は、そのうち。

(石黒修三 いしごくクリニック)

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身)



イラスト・野畑桃花